

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【桜木中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	次年度に向けて (3月)
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	【学習上の課題】資料、データ、説明文等の内容理解について、知識・技能の習得における差が見られる。 【指導上の課題】資料や物語等で日常生活に結びついた資料を用いたり、個に応じて知識・技能の習得を図ったり、話し合い活動を通して知識の定着を図っていく等の指導に工夫が必要である。	⇒ 【学力改善策】①ICT等を用いて資料やデータ等の具体物を提示し、個に応じて自身の知識を深める時間を設定。②ドリルパークやスタディサプリ等を活用した、知識・技能の習得。③生徒が主体的に学ぶ時間の設定。【通年】 【評価方法】R7年度さいたま市学習状況調査の質問項目「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。」の2項目において、肯定的な回答の割合が90%以上
思考・判断・表現	【学習上の課題】知識や内容を相手にわかるように伝える表現力や、相手に説明する際に根拠となる部分を引用したり、他者の考えと比較したりしながら、相手にわかりやすく伝えることに課題がある。 【指導上の課題】説明文、資料やグラフ等の特徴や傾向を捉えて、言葉やデータを用いて相手に表現する場面設定と指導に工夫が必要である。	⇒ 【学力改善策】①ICT等を用いて個々の生徒の習熟度に応じた発展的な学習環境の設定。②理解した内容を相手に説明する等の協働的な学びの場面の設定。【通年】 【評価方法】R7年度さいたま市学習状況調査の質問項目「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていたと思いますか。」「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。」の2項目において、肯定的な回答の割合が90%以上

⑤	評価(※)	調査結果 学力向上策の実施状況
知識・技能		①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握) 職員会議・校内研修等
思考・判断・表現		結果提供(2月)

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	国語では、知識・技能の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に「言葉の特徴や使い方にに関する事項」での正答率が高かった。正答率の高さの背景には、生徒質問「国語の授業で、文章を書いた後に、読み手の心や思い、文や段落の長さ、語句などが適切かどうかを確かめて文章を書いていますか。」の肯定的な回答が全国平均より高く、また「国語の授業で、文章を読み、その文章の構成や無関係に、どのような効果があるのかについて、根拠を明確にして考えますか。」への肯定的な回答も全国平均より高いことから、日々の国語の授業において「言葉の使い方」に関しての知識の定着が図られている。 数学では、知識・技能の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に「データの活用」での正答率が高かった。生徒質問「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか。」への正答率が全国平均より高い。数学の授業における4人グループでデータや文章問題等に関して、自分の言葉でグループへの説明する対話的な学習の時間が設けられていて、知識を活用する技能が高まっている。
思考・判断・表現	国語では、思考・判断・表現の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に「話すこと・聞くこと」「読むこと」での正答率が高かった。問題出題の趣旨「相手の反応を踏まえながら、自分の考えが分かりやすく伝えるように表現を工夫することができるかどうかをみる」「問題への正答率が全国平均より高く、背景には生徒質問「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」への肯定的な回答が全国平均より高く、国語の授業を含めて各授業での言語活動の充実が表現力の向上に繋がっている。 数学では、思考・判断・表現の平均正答率は全ての項目で全国平均を上回った。特に問題出題の趣旨「不確かな事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる」「問題への正答率が全国平均より高く、生徒質問「学級の生徒との話し合い活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいていますか。」への肯定的な回答が全国平均より高い。数学の授業を含めて各授業における協働的な学びが問題等への思考や判断の幅の広がりに繋がっている。

①結果分析(管理職・学年主任等)
②詳細分析(学年・教科担当)
③分析共有(児童生徒の実態把握)
夏季休業中

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	A	全国学力・学習状況調査の生徒質問「1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか。」への肯定的な回答が全国平均より高い。各教科の授業における個に応じた探究の時間を更に充実させることで主体的な学習に繋がる。また、知識・技能を定着させるために主体的・対話的で深い学びの時間の更なる充実が課題。	変更なし
思考・判断・表現	A	全国学力・学習状況調査の生徒質問「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。」への肯定的な回答が全国平均より高い。総合的な学習の時間での課題解決スキルが各教科の授業における課題設定や探究心にも繋がっている。各教科において更に習熟度に応じて自ら課題に取り組む時間や、学んだことを互いに説明する協働的な時間を充実させることが課題。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)